



リキッド消費って何？

◆「所有」しない消費行動／時間もコストも節約

Q－「リキッド消費」って聞いたけど、何のことかな。

A－リキッド（液体）のように形をもたず、状況に応じて変化することから、その名がついた消費行動のことです。特徴としては▽欲しいものがその時々で変わる（短命性）▽必要なときに一時的な使用权を購入する（アクセス・ベース）▽所有より体験を重視する（脱物質）という三つの要素が挙げられます。音楽や映画のサブスクリプション、洋服や車のレンタルなどが代表例です。

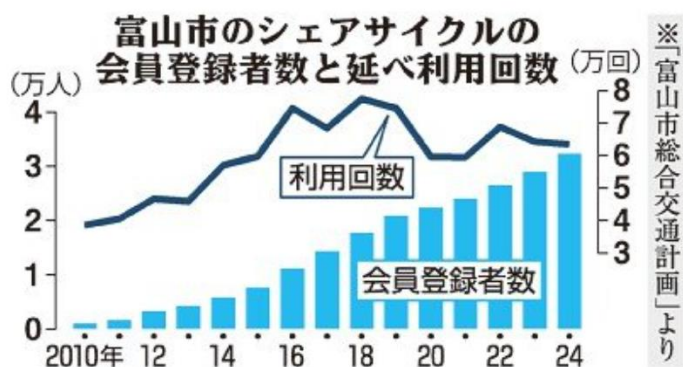
Q－どうして広がっているの。

A－デジタル技術の進歩に加え、モノを所有することにこだわらず、体験（コト）に価値を見いだす流れが強まっています。必要なときだけ利用できる手軽さや、時間的・金銭的コストを抑えられる点に加えて、自分の所有物としないことで管理の手間や保管スペースが不要になり、生活を身軽にしたいという消費者のニーズにも合っているようです。

リキッド消費が広がり、「分かりやすく手軽に楽しめるものが良い」という価値観が強まることで、時間をかけてこそ味わえる価値が評価されにくくなるという懸念もあります。一方で、幅広い体験を楽しめる、資源を効率的に利用し環境負荷を抑えられることはメリットとなるでしょう。

Q－富山市で見るキックボードのレンタル拠点もそう？

A－富山市では、中心市街地に生活機能を集約する「コンパクトシティ化」が進んでおり、移動手段を所有せずに“必要なときだけ借りて使う”という形が広がっていますが、これはリキッド消費の特徴と共通するところ です。都市部で利用が拡大している電動キックボードのシェアサービス「L U U P（ループ）」は、2024年に富山市にも導入され、街中を気軽に移動できる手段として使われています。市内ではレンタサイクルやカーシェアの利用も増えており、所有にこだわらずサービスを使い分ける動きが広がっています。



（この連載は北陸経済研究所の小沢恵理奈が担当しました。随時掲載します）